

私とそろばん

保育士 吉原 滉大

私がそろばんに出会ったのは5歳の5月です。習い始めたのも本当にありきたりで、姉と兄が通っていたので「私もやってみよう」が一番の理由です。先生には、赤ちゃんの時から知られていて、「大きくなったらそろばんを習いに来るのよ」と言われていて、今思えば、そのときから目を付けられていたのかもしれませんが。

入塾後は、火・木曜日は保育園からそのまま塾に、練習日でない時は姉の勉強机の隣で練習していたのを今でも覚えています。どのタイミングで選手になったかはよく覚えていませんが、小学3・4年生の頃に、「そろばんコンクール」や「あんざんコンクール」に出ていたと思います。小学5・6年生になると、県外の大会に出場する機会も増えました。隣の選手との交換採点が間に合わず、近くの委員の先生に手伝ってもらうはめになった苦い記憶が残っています。あとで、大会の優勝者であると知り、この瞬間「現実」を思い知らされました。普通なら「自分もあの子みたいになりたい」とか「どんな練習したら上手になれるのかな」と思い練習に励むと思いますが、そのときの私は「あ…無理だ」とか「自分じゃ、絶対に勝てっこない」と思ってしていました。この時の私は「努力」「継続」というものが嫌いで、「努力しても報われないこともあるだろう」「自己満足だろう」そう思っていました。

中学・高校の6年間は、部活動もあり、帰宅後、車で通塾して練習時間は19時～20時頃でした。そろばんの練習に費やす時間も限られているなかで、検定や大会練習をしていました。引き続き大会には出場していました。そろばんは嫌いではありませんが、勝ちたいとか、優勝したいという気持ちが足りなかったのかと思います。

理由のひとつとしては、共に練習をする仲間が退塾し、周りのライバルがいなくなったことと、学校での部活や勉強が忙しくなったことかもしれません。気がつくと、同年代は私一人となっており、高校3年の9月頃をもって、一度そろばんから離れました。高校卒業後は、短大に進学し保育士免許を取得し地元で保育士として勤務していました。2024年6月に、先生から電話があり、「団体メンバーの一員として、そろばんをやってみないか」という話でした。5年ぶりに塾に行きましたが、最初に教室に入るには少々勇気がいりました。しかし、一緒に練習をするなかで、私のために名札を作って置いてくれる子がいてくれ、とても心地よい環境に感じました。練習の合間の会話で「上手になろう」と話す子がいて、この私に「もう少しやってみよう」と思わせてくれました。練習を通じて、知らぬ間に、そろばんが「趣味」のひとつになり、現在に至っています。それもあってか、数年ぶりの昇段と、昨年の県大会で県一にもなれました。今の目標は十段取得と県一の連覇で、それを目指し練習しています。

先生から、このお話をいただいたとき、「そろばんを通して何が身についた?」と聞かれ、「計算力」と言いましたが、受験や就職等の面接で「得意なことはありますか?」と聞かれたときに「そろばんです」「暗算が得意です」とさっと答えられたことと、そろばんを通じて多くの仲間ができたことかなと思います。

今からそろばんを習う子どもたちには、趣味やゲーム感覚で「時間があるから少し練習しようかな」でいいかと思います。私のこの投稿で、そろばんをやってみようかなと興味をもち、習いはじめてくれる子が増えることを願っています。